

様式3

令和4年12月8日

豊田市長 太田 稔彦 様

朝日丘地域会議
会長 日高 守

答 申 書

地方自治法（昭和22年法律第67号）第202条の7第1項の規定に基づき諮問を受けたことについて、下記のとおり答申します。

記

以下3つの目指す姿の実現に向けて、家庭・地域が一丸となって取り組む環境配慮行動を提案します。

目指す姿①水道・電気使用量の削減やごみ減量を意識している地域

●区民会館の設備更新

地域住民が節水・節電を意識するために、まずは身近な公共的施設である区民会館の設備を整備する（照明LED化やエアコン更新、太陽光パネル・蓄電池の設置）必要がある。設備の整備は市の支援が必要である。

●レジ袋の代わりに豊田市指定ごみ袋の利用

スーパーで買い物した際にはエコバックを持参することが第一だが、レジ袋を購入する人に対しては、豊田市指定ごみ袋を販売または配布する。市によるレジ用の指定ごみ袋の作成をお願いしたい。今までと比較し小さめのサイズの指定ごみ袋は、ごみの排出量が少ない人（一人暮らし等）にとって丁度良い。また、レジ袋の再利用率の上昇が見込まれる。

目指す姿②近場の移動は車に乗らない地域

●「マイカー年休運動」の実施

毎月〇日等のマイカーを使わずに徒歩・自転車・公共交通機関の利用を推進する日を設け、地域住民が「車に乗らない」ではなく、「健康のために歩きたい」という意識で運動に参加できるような啓発活動を実施する。

●万歩計アプリの活用

ポイントが付与される万歩計アプリ（すこやかんぽ、Green Ponta Action 等）を周知し、健康意識向上とあわせて地域住民の環境意識向上にも貢献する。アプリを活用し、新しい博物館をゴールにするウォーキングイベント等を開催する。

●朝日丘循環バスの整備

地域住民で構成される協議会を設置し、交通事業者、市とが連携して、朝日丘地域（特に美術館や新しい博物館）や豊田市駅をつなぐバスを運行する。路線は地域住民の利便性が向上するよう工夫して設定する。

目指す姿③カーボンニュートラルを身近に感じて学べる地域

●SNSフォトコンテストの実施

カーボンニュートラルに関連した写真をSNS上に投稿する等、地域の子ども・若者向けイベントを実施する。若い世代の取組は地域の高齢者にも伝わる。

●ごみを使ったアートコンテストの開催

地域のごみを集めてポイントを競う「スポGOMI」に朝日丘にある「美術館」に関連づけて、ごみを使ってアート作品を作るイベントを開催する。

●植樹イベントの実施

美術館や新しい博物館等、朝日丘地域にはたくさんの文化施設があるが、地域住民の関心は高くない。地域住民を対象とする施設周辺での植樹イベントを実施し、環境意識と地域の愛着心を一緒に向上させる。

●各自治区にカーボンニュートラル推進委員の設置

カーボンニュートラル推進委員は、環境配慮に関連した「地域スローガン」や、家庭でできる環境配慮行動をまとめた「アイデア集」を作成・周知する。地域で暮らす高齢者にとって「カーボンニュートラル」という言葉は遠いものであるため、高齢者向けの勉強会等の調整を行う。

1 家庭での行動

各家庭で取り組みたい環境配慮行動を整理した。

〈CO2 削減の分野〉 〈〇家庭での行動〉

 <p>水道</p>	<ul style="list-style-type: none"> 〇湯船をためる等して、シャワー使用を短縮する 〇洗面所や台所等、元栓を少し絞り、蛇口から出る水量を減らす 〇水洗トイレのタンクの中に水を入れたペットボトルを沈める
<p>水道・ガス</p>	<ul style="list-style-type: none"> 〇冬の入浴は、家族が時間帯を集中し、稼働時間を短縮する
 <p>電気・ガス</p>	<ul style="list-style-type: none"> 〇エアコン稼働は1部屋に限定して家族団らん 〇冷暖房設定温度を調節する 〇エアコンは30分以内の外出時は継続運転で、切らない 〇エアコン始動時と同時に切りタイマーを入れ無駄な稼働を止める 〇人数や部屋の広さに応じた適正温度に心掛ける 〇エアコン室外機に直射日光が当たらないよう「ひさし」を設置する 〇家の南壁・西壁に直射日光が当たらないよう日陰を作る
 <p>電気</p>	<ul style="list-style-type: none"> 〇照明は蛍光灯からLEDに切り替える 〇使用しない部屋の照明はこまめに消灯する 〇電気器具使用時のこまめに電源をOFFにする 〇照明使用量削減（家族団らんは同じ部屋で） 〇テレビ番組を選び、1日の利用時間を1時間でも減らす 〇待機電力を減らすため、長時間使用しない電化製品のコンセントを抜く 〇自宅に太陽光パネルを設置する
 <p>移動手段</p>	<ul style="list-style-type: none"> 〇通勤手段をマイカーから公共交通機関に変える 〇テレワークを積極的に利用する 〇空吹ぶかし、急発進・急停車などしないようエコドライブを心掛ける 〇「ECO-DRIVE」点灯表示の運転を継続する 〇アイドリングストップ機能のついた車に乗り換える 〇流れに添って一定速度で走行しエンジン負荷を低減する 〇夏のエンジン始動時は窓全開で、車内の熱気を排出する
<p>移動手段・ごみ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 〇宅配サービス、通信販売などは出来るだけ利用しない
 <p>ごみ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 〇エコバッグは常時携帯し、ビニール袋の使用はやめる 〇プラスチックトレイ排出時は細かく切って出す 〇家庭ごみの分別を守る 〇ティッシュペーパー使用後の紙容器を取出し口のフィルムと紙箱を分別する

2 地域での取組

「家庭での行動」をより多くの住民に実施してもらうため、市の協力のもと自治区や小中学校区の規模感で実施を検討したい取組を提案する。

-  区民会館での節水の呼びかけ
- 地域内の不要な水道を調査し、使用不可に
-  区民会館のエアコンに設定温度表示（冷房は28度・暖房は20度）
- 区民会館の照明の計画的なLED化や太陽光パネルや蓄電池の設置
-  ゴミ分別などゴミステーションの地域内統一ルールを作成
- 自治区だよりで環境配慮行動を周知
 - ・古いエアコンの更新
 - ・照明器具のLED化
 - ・新しい「地域スローガン」
 - ・アイデア集（スマホの効率的な充電方法など）
- 各自治区にカーボンニュートラル推進委員を設置し、地域の高齢者に情報伝達
- 植樹・植物を育てる（CO2削減ではなくO2を増加）
 - ・管理しやすい低木や花を育てる
 - ・荒地を活用し緑豊かに
 - ・市が種や苗木を提供

3 市にやってほしい啓発活動

市が事業化し、地域住民の環境配慮に対する意識向上のため実施してほしい啓発活動を提案する。

-  **マイカー年休運動**
 - ・車に乗らないのではなく、健康のために歩く
 - ・ポイントが付く万歩計アプリ活用
- **朝日丘循環バスを整備**
- **次世代公共システム（SORA、ロープウェイ、ケーブルカー）を整備する**
-  **ごみを使ったアートコンテスト（スポゴミならぬアートゴミ）開催**
 - ・ごみを拾って分別
 - ・新しい博物館や美術館を会場に
- **買い物袋の代わりに豊田市指定ゴミ袋を配布または販売**
 - ・自宅で活用が可能
 - ・小さいサイズの袋があればゴミ排出量が少ない人にぴったり
- **学校給食の生ごみを減らす**
- **「カーボンニュートラル」について、子どもや若者たちからSNSなどを使って情報発信**
 - ・SNSフォトコンテスト ⇒ 家族（高齢者）や地域に伝わる